遅筆堂文庫
NPO法人遅筆堂文庫プロジェクト

シベールアリーナ＆遅筆堂文庫山形館　開館記念

米原万里展「ロシア語通訳から作家へ」

2008年9月16日（火）→12月28日（日）

シベールアリーナ＆遅筆堂文庫山形館ギャラリー

開館時間＝午前10時→午後7時　入場料＝無料　休館日＝月曜日（祝日または振替休日の場合は開館、翌火曜日が休館）　主催＝NPO法人遅筆堂文庫プロジェクト

鎌倉の自宅居間にて。（撮影：三宅数）

シベールアリーナ&遅筆堂文庫山形館 開館記念

米原万里展「ロシア語通訳から作家へ」

2006年5月、惜しまれながら亡くなった米原万里さんの人生を振り返る初めての展示会です。米原さんが生まれてから亡くなるまでの56年間のすべてがわかるようにたくさんの写真で紹介。そして、その人生を「プラハ時代」、「通訳時代」、「作家時代」という3つの区分と「仲間と家族」というコーナーに分けてさらに深く米原さんの生き方に迫ります。また、日常生活で愛用した身近な小物、書き残した手紙、原稿、設計図、パスポート、ファイル活用の書棚の復元、全著作（23作品に井上ひさしさん解説付き）を展示しました。ロシア語同時通訳・エッセイスト・作家として幅広く活躍された米原さんの強い姿をご覧下さい。

在プラハ・ソビエト学校時代の米原万里（右端）。

ロシア語通訳として活躍した。右端米原万里、前ヘゴルバチョフ、ライサ夫人。

次第に作家の仕事に専念していった。自宅書斎にて。
（撮影：木村直軌）

左：『魔女の1ダース』（新潮文庫）
中：『嘘つきアーニャの真っ赤な真実』（角川書店）
右：『オリガ・モリソヴナの反語法』（集英社）

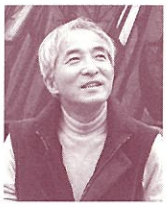
〈米原万里（よねはら・まり）プロフィール〉

1950年～2006年。東京生まれ。ロシア語同時通訳・エッセイスト・作家。

1959年～1964年、在チェコスロバキア・ソビエト学校に学ぶ。東京外国語大学ロシア語科卒・東京大学大学院露語露文学修士課程修了。ロシア語通訳協会設立。初代事務局長（80年～94年）、のち会長（95年～97年、03年～06年）。1980年代前半からロシア語同時通訳者として活躍。1994年、通訳論で作家としてデビュー。1992年には同時通訳による報道の速報性への貢献を評価され、「日本女性放送者懇談会賞（SJ賞）」受賞。日本ペンクラブ常務理事（03年～06年）。

著書は『不実な美女か貞淑な醜女（ブス）か』（読売文学賞受賞）、『魔女の1ダース』（講談社エッセイ賞受賞）、『ロシアは今日も荒れ模様』、『ガセネッタ＆シモネッタ』、『嘘つきアーニャの真っ赤な真実』（大宅壮一ノンフィクション賞受賞）、『真夜中の太陽』、『ヒトのオスは飼わないの？』、『旅行者の朝食』、『オリガ・モリソヴナの反語法』（Bunkamuraドゥマゴ文学賞受賞）、『真昼の星空』、『パンツの面目ふんどしの沽券』、『必笑小咄（こばなし）のテクニック』、『他諺（たげん）の空似（そらに）』、『打ちのめされるようなすごい本』、『終生ヒトのオスは飼わず』、『発明マニア』、『米原万里の「愛の法則」』、『マイナス50℃の世界』、『心臓に毛が生えている理由（わけ）』、『言葉を育てる 米原万里対談集』。翻訳書に『わたしの外国語学習法』、『父と暮せば』。

［記念ミニ講演］
入場料：500円（先着100名・申込順）



吉岡忍

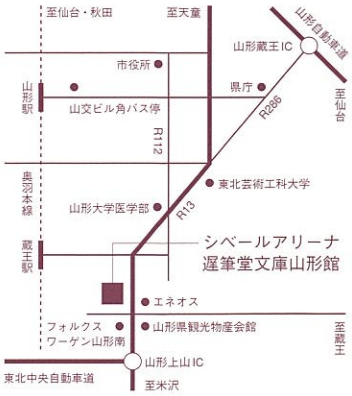
金平茂紀

小森陽一

井上ユリ

◎11月1日｜土｜ 午後1時
吉岡忍（作家・日本ペンクラブ副会長）
◎12月2日｜火｜ 午後1時
金平茂紀（TBSテレビ取締役報道局長）
◎12月28日｜日｜ 午後1時
小森陽一（東京大学大学院教授）
井上ユリ（米原万里の実妹）

［巡回展］（予定）
◎2009年1月→2月
川西町遅筆堂文庫ギャラリー（川西町）
◎2009年2月→3月
仙台文学館（仙台市）



交通のご案内
お車：山形自動車道・山形蔵王ICから国道13号線を米沢方面へ約15分。東北中央自動車道・山形上山ICから国道13号線を天童方面へ約5分。
新幹線：JR山形新幹線・山形駅下車。
バス：山交ビル角バス停から「上山・高松葉山行き」に乗車し、表蔵王口バス停下車、徒歩約20分。
徒歩：JR奥羽本線・蔵王駅から約30分。

［お問い合わせ］
シベールアリーナ＆遅筆堂文庫山形館
〒990-2338 山形市蔵王松ヶ丘2-1-3
（シベールファクトリーメゾン敷地内）
TEL 023-689-1166 FAX 023-689-1167
E-mail chihitsudo@mugikobo.co.jp
http://www.cybele.co.jp/chihitsudo/